

第43回 高橋記念賞

高橋記念賞は、故高橋愛次氏の功労を記念し、扶桑軽合金株式会社（現 株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により、軽金属鋳物、ダイカスト、展伸材、二次合金および再生地金等の溶解・鋳造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。



川島 衛 君
(日軽エムシーアルミ
株式会社)

川島 衛 君は、1991年に日本軽金属株式会社へ入社後、幸田工場（現 日軽エムシーアルミ株式会社幸田工場）へ配属され、一貫してアルミニウム合金事業に従事してきた。幸田工場は、新塊ベースのインゴットを製造し、主に自動車部品用アルミニウム合金鋳物・ダイカストの原料として供給している。その中であって同君は、製造課の組長を長年務め、日々の安定操業から、新規開発合金の試作・量産化まで幅広く携わり、本事業に多大な貢献を果たしている。同君が強く関わっている合金としては、耐磨耗性ダイカスト合金や、アルマン合金、高熱伝導ダイカスト合金、高韌性ダイカスト合金等、枚挙にいとまがない。また最近では、海外のアルミ会社との製造契約により、高性能アルミニウム合金の製造と品質検査方法の確立にも携わっている。これらの合金は一様に組成が特殊で、かつ成分規格内に正確に入れることが重要であり、更に介入物評価試験などの評価技術も要求されるが、同君は当社の第一人者と言うべき技術を有している。また、これらの高度な操業技術をもって、後任の育成や若手の指導、更には安全衛生も担当している。



高野 和彦 君
(YKK AP株式会社)

高野 和彦 君は、1979年に吉田工業株式会社（現 YKK AP株式会社）に入社以来、41年間一貫してアルミニウムの溶解鋳造業務に従事し、2013年度からは工程の責任者として活躍している。この間、押出加工用アルミニウムビレット製造における作業、および設備面から多くの改善活動に取り組み、生産性および品質向上に大きく貢献してきた。特に、YKK APで導入したDCフロート鋳造・ホットトップ鋳造の最適な鋳造条件を確立して安全性や作業性を向上させるとともに、不良削減で大きな成果を上げている。また、持続可能な社会を目指すアルミニウムのリサイクルにも力を注ぎ、スクラップの溶解方法を追求することで、溶解減耗やエネルギー原単位を悪化させないような技術を構築した。設備保全においては、予防保全の推進によりトラブルの未然防止に努めた。また、高圧ガスなどの事故防止の保安活動にも尽力し、令和元年度高圧ガス及び液化石油ガス保安功労者等熊本県知事賞を受賞している。さらに、同君がこれまで培ってきた豊富な経験を活かし、溶解鋳造作業の指導、設備診断やメンテナンスの指導、そして新設備の導入などに力を尽くすとともに、後継者の指導・育成にも力を注いでいる。



福田 鉄也 君
(株式会社
アーレスティ熊本)

福田 鉄也 君は、1983年4月に株式会社熊本フソー（現 株式会社アーレスティ熊本）に入社し、37年間ダイカスト鋳造の現場の先駆者として様々な生産性改善や職場改善などに多大な成果を上げ、ダイカスト業界の発展に大きく貢献してきた。特に2001年には離型剤量とチップ潤滑量の改善でロット立上り時の鑄巣不良の低減、翌2002年には給湯機検知棒のセラミック化時のトラブル停止によるトライ不良を大幅に低減させた。その他、鋳造工場の騒音対策や手許炉の電力消費量削減（2003年）、2004年には射出のばり吹き対策でチップ潤滑ポンプの改善やミキシングブローによる最適なスパイラル塗布実現など、ばり吹きの諸問題を見事に解決させた。それ以外にも2017年度から工程削減の一環として、鋳造ばり取り技術の開発に携わり、鋳造工程と同期化したインラインばり取りを実現し、ばり取り費用の取り込みや工程削減を行った。このように同君は、多岐にわたって現場の難題に果敢に取り組み、大きな成果へ繋げてきた。現在は、鋳造検査Grのリーダーとして、これまでの豊かな経験と情熱をもって検査の最適化追求や後進の指導育成にも尽力している。



吉井 敦也 君
(昭和電工堺アルミ
株式会社)

吉井 敦也 君は、1985年に昭和アルミニウム株式会社（現 昭和電工堺アルミ株式会社）に入社以来、35年間一貫してアルミニウムの溶解・鋳造プロセス業務に従事し、現在に至っている。特に1993年からは新炉の立上げとホットトップ鋳造設備の導入に参画した。この時に確立した製造条件は、二十数年後の現在でも高品質なビレット鋳造のためのベースとなっている。また、2007年のアルミニウム精製設備2号機の立上げ時には自らオペレート業務を行いながら、最適な操炉方法の検討と条件の最適化に携わり、更に班長に就任してから導入された3号機に対しても、設備仕様へのMP情報の提案、設備の安全化への提言、若手オペレーターの指導等を精力的に実施し、当該精製設備の安全安定操業に大きく貢献した。2009年に生産技術部門に移ってからは、縦ノ木模様、ストリークス、ストリンガー等のアルミニウム表面処理特有の不良改善に取り組み、原料配合、鋳造条件、合金組成、母合金品質、溶湯処理条件等の様々な因子についての実験・解析と対策によりアルマイト用途合金の鋳塊品質向上に大きく貢献した。更に現在もその豊富な経験と高い技能を活かし、後進の指導育成にも尽力している。